



平成21年5月21日に裁判員制度がスタートしました。

皆さんは、我が子や地域の子に「裁判員制度って？」と聞かれたら何と答えますか。ここで、裁判員制度について、家族全員でクイズにトライしてみてください。

Q1 裁判員が行うのは、刑事裁判・民事裁判のどっち？

A1 地方裁判所で行われる、次のような刑事裁判です。

- ①強盗が人にケガをさせ、その結果、死亡させた場合
- ②ひどく酒に酔った状態で、自動車運転して人をひき、死亡させた場合
- ③子どもに食事を与えず、放置して、死亡させた場合などです。

Q2 裁判員は、誰でも選ばれる？

A2 選挙権がある人から選ばれます。しかし、次のような場合は辞退できます。

- ①70歳以上の人や学生、生徒
- ②親族や同居人の養育や介護

Q3 妊娠中や出産直後(8週間以内)裁判員になると、日当は、入らなない？

A3 預貯金口座に振り込まれます。ほかにも、交通費や昼食代、宿泊料なども支払われます。

Q4 裁判員になったことを誰でも教えていい・いけない？

A4 インターネットなどで自分が裁判員になったことを公表することは許されませんが、日常生活の中で、家族や親しい人に話すことまでは禁止されません。

他にも、いろいろ知らない損をしたり、困ったりすることがあります。また、私たちもいつ裁判員になるかわかりません。小学生の人も、中学生の人も、高校生の人も、いつかは裁判員になる可能性があります。今から、この制度についてよく理解し、家族で話し合ったらいかがでしょうか。

参考文献

よくわかる裁判員制度 Q & A  
最高裁判所著



## 夏の青少年生活指導の手引き

### 家庭での取り組み

青少年が心身共に健やかに成長し、自立した責任感のある大人となるためには、基本的な生活習慣や社会規範などを身に付けることが大事です。それは、家庭での生活の中で培われるため、家庭が果たす役割が重要です。家族の一員としての自覚と責任ある行動を身に付けさせ、家族の絆を深めましょう。

◎家族そろって語り合う機会を多くつくり、青少年に家族の一員としての役割を分担させ、自覚と責任のある生活をさせましょう。

◎家族がみんなで、地域活動やボランティア活動に参加し、世代を越えてのふれあいを通して、人間関係を育み、社会参加への意欲を高めましょう。

◎青少年の悩みや心配事は速やかに市や学校のカウンセラーに相談しましょう。

◎青少年がインターネットや携帯電話などによる有害サイトへの接続ができないようにフィルタリングソフトや接続防止サービスを利用しましょう。

また、親子でインターネットや携帯電話の使い方を話し合い、正しく安全に使うためのルールを決めましょう。

◎子育て講座、研修会などに積極的に参加し、家庭の教育力を高めましょう。

◎新型インフルエンザなどの感染症予防のために規則正しい生活、うがい、手洗いの励行など健康対策に家族全員で努めましょう。

### 地域での取り組み

地域は、青少年にとつて世代を越えた交流を広げる場です。地域での活動は、「共に生きる力」、「地域を愛する力」など様々な「力」を身に付け実践する貴重な場であり、様々な活動ができる良い機会です。青少年自身が主体となつて参画できる地域活動を企画し、展開しましょう。

◎地域の人々とのふれあいを大切にし、あいさつや声掛けを広げ、温かい人間関係を築きましょう。

◎地域住民と青少年が協力し、共に助け合える地域の行事や活動を計画し、青少年の社会参加の促進や相互の連携を図りましょう。

◎地域住民と関係機関や諸団体が連携を図りながら、青少年の非行防止、青少年の健全育成キャンペーンや有害環境浄化などの活動に積極的に参加しましょう。

◎青少年や保護者からの相談に迅速に対応し、関係機関との連携体制の充実を図りましょう。

◎地域住民、関係機関や団体は、青少年が安全に安心して活動ができるよう犯罪のないまちづくりの推進に取り組ましましょう。

◎地域での学習会を充実させ、地域住民全体で青少年の健全育成のための具体的な取り組みを確認しましょう。